

厚木連合戸陵会だより

皆様に喜ばれる
ゴルフ練習場を目指して...
リニューアル9/11(木)オープン
厚木ゴルフガーデン
代表取締役 藤原玲子(高30) 厚木市中荻野1185
☎046-241-2882
http://www.golf-garden.com

戸陵会だより ●発行=県立厚木高校同窓会(厚木連合戸陵会) ●発行責任=内田徳孝 ●編集責任=大塚憲二 ●厚木市中町4-12-10 ☎046-223-3458

20年度同窓会定期総会開催される

新会長に近藤俊二さん(高6回) 就任



平成20年度 同窓会総会 総会後の懇親会に出席の衆院議員甘利明さんを囲んでのメモリアルシーン

20年度同窓会定期総会は去る7月5日、厚木商工会議所五階大会議室で開催された。参加者は各支部役員ほか有志百名余り。議長に選任された櫻井晃さん(高9回)と杉崎秀夫さん(高17回)により議事進行、19年度の事業報告、監査報告、20年度の事業計画案、会費予算案各々の議案とも承認された。

今総会では任期満了に伴う役員改選が重要議題のひとつだった。これは各支部から推薦された役員選挙委員

19年度の母校教育振興基金から約1千万円が援助されたが、これに対して堀英雄学校長から謝辞が述べられた。また、母校支援金による旧体育館の補修工事費や生徒のために新たに設置された補習室の付器設置費用などの寄付に対しても、同窓会の力の大きさを実感しているとの謝辞があった。

恒例の講演会は斎藤十内さん

20年度厚木連合戸陵会総会 (於元湯旅館7月27日)

今回の総会は任期満了に伴う役員改選が主な議案であった。改選に伴う規約の一部改正があり副会長の人数が従来の8名から9名に改正された。内田徳孝さん(前厚木連合戸陵会会長)が推薦され、満場一致で承認となった。その他の留任、新任の役員は左記に掲げるとおり。議長は朝生旭さん(玉川森の里高9)が選出され、議事進行。

19年度事業報告、決算報告、20年度事業計画案、予算案それぞれ承認された。また当日の来賓である近藤俊二同窓会会長からは、厚木連合戸陵会への果たす同窓会中核としての役割にさらなる大きな期待をするとの挨拶があった。

◆「あいさつ」◆
厚木連合戸陵会会長 内田徳孝(高10回)

大変人望の厚い前石川範義会長の後任として、不肖ながら私が就任することになりました。

この伝統ある戸陵会が存続している陰には、各地域の戸陵会の会長をはじめ各役員の方々の多大な尽力、協力があってこそ成り立ちます。

これから本部同窓会との連携、協力を密にし、地域の中心的立場から益々精力的に活動を進めて行く所存です。今後は、特に若い世代の同窓生達にも理解を深めてもらい、地域活性化の活力源になって頂きたいと考えています。同時に、会員相互の一層の親睦をはかり、さらに友好的な会にして行きたいと考えております。

尚、三号日の発刊にあたり役員の方々に並びに広告掲載に御協力頂きました方々には、この誌面をお借りし感謝申し上げます。

今後とも、何卒宜しくお願致します。

- 新会長に内田徳孝さん(高10) 就任**
- 厚木連合戸陵会新役員
- 会長 内田徳孝(高10)
 - 副会長 櫻井晃(依知高9)
 - 難波浩(睦合高11)
 - 花上肇(荻野高11)
 - 志村昂二(小點高15)
 - 城所文洋(南毛利高11)
 - 大貫隆広(相川高9)
 - 川田善久(厚木高7)
 - 石射隆宏(南毛利高14)
 - 朝生旭(玉川森の里高9)
- 幹事長 伊藤修治(依知高17)
- 事務局長 森久保純生(小點高16)
- 会計 足立原強(厚木高16)
- 二見政宏(相川高16)
- 会計監査 高橋増次(玉川森の里高11)
- 足立一彦(睦合高17)



内科・循環器内科
心療内科

厚木ハートケアクリニック

http://www.atsugi-heartcare.com

難波 智 (中42回) 院長 循環器専門医 伴野富佐子(旧姓・難波)(高37回)

〒243-0203 厚木市下荻野1393-1

〒243-0203 厚木市下荻野1476-1
ソルローマ本厚木1F
TEL 046-243-5533
FAX 046-243-5503

あれもこれも気軽に頼めて、
もっとわがママを聞いてくれる。
ご高齢者のための
暮らしのお手伝いサービスないかしら?

- 公的介護保険でできないこと(例:同居する家族のための家事や草取り)
- 身体介護や見守りも
- 一回だけのご利用も
- 専門教育を受けたスタッフ、ご本人と気が合う決まったスタッフが訪問
- 年末年始やゴールデンウィーク、お盆も
- 外出の付き添いや施設などのお手伝いも
- 24時間365日対応、緊急時にも対応
- サービスエリア内なら料金は交通費込み
- お掃除や料理づくりなどの家事も

ホームインステッド 厚木ステーション
〒243-0201 厚木市上荻野360
☎0120-003-721
FAX046-241-2638

取締役会長 三橋成章(高11回)

つるくぼ 耳鼻咽喉科

日本医科大学講師・つるくぼ耳鼻咽喉科院長
医学博士 鶴窪一行(高26回)

診療所/〒243-0018厚木市中町3-3-22
TEL.046-221-4187 FAX.046-225-4133

学校だより
生徒の動向

文藝部、新聞部、囲碁将棋部が全国大会へ

市民にもその動向が注目され始めた 「厚木ユナイテッドチルドレン」

8月の鮎まつりでは貧困、飢餓、環境破壊等に感心を持ってもらおうと「世界幸せ運動」と名付け、オリジナルTシャツを販売した。完売した売上金をユニセフに寄付すると言う。この厚高生を中心に結成された中・高校生ボランティアチームの今後の活動に期待が高まっている。



代表・坂木良太君(厚高2年)と今回のプロジェクトリーダーの菅野真以(厚高2年)さん



厚木ユナイテッドチルドレンの面々。熱風の吹き荒れる中央公園内ブース前で。

文化部のインターハイといわれる「第32回全国高等学校総合文化祭群馬大会」に本校の文藝部・新聞部・囲碁将棋部が出場します。大会は8月6日(水)から10日(日)まで5日間に渡って開催される。参加するのは文藝部の大永歩さん、新聞部の小野裕也さん、石澤ゆり花さん、村山琴美さん、囲碁将棋部の小林太一さんの5人です。この大会は、全国から高校生2万人が集結し、24部門でコンテストや発表会を行うものです。わすか1週間で書き上げた「海への道」が神奈川県代表作品に選ばれた大永さんは、小さい頃から本が好きで、いつからか文学に携わる職業を志すようになったそうです。「読んだ人の心に何かを残せるような書き手になりたい」と言っています。7年連続の出場となった新聞部は紙面審査のほか、現地での取材活動と新聞の編集などを行う予定になっています。部員たちは「厚高新聞をよりよいものにしていけるように、たくさんのご意見を吸収していきます」と話してくれました。また、小学校2年生の頃から将棋を始め、中学校3年生の時に中学生の全国大会への出場経験もある小林さんは、「今大会もベスト8以上を目指してがんばりたい」と抱負を語ってくれました。(志村記)

※新聞部は年間発行審査部門で優良賞受賞の知らせがあった

飯山地域の夏祭りは白龍づくし!

～「紙芝居」と「白龍太鼓」と「白龍の舞」で～

小鮎戸陵会幹事長 小島 富司(高18回)

小鮎戸陵会の地域への思いは

今年の龍蔵神社の例大祭は8月3日開催された。飯山地区全体の祭りとして一年一度、飯山の芸能文化を奉納し御神徳を高めることをねらいとした神賑行事(余興)が、飯山の人々により飯山の地域から生まれた、紙芝居「白龍ものがたり」

芝居「白龍ものがたり」。「白龍太鼓」。「白龍の舞」として多彩に展開された。真夏の蒸し暑い一夜に、神社境内は子どもからお年寄りまで善男善女の人垣でうまり、しかも飯山温泉地らしく浴衣姿の温泉客も加わり、郷土の芸能文化をみな楽しんでいった。

小鮎戸陵会は、平成14年の春に発足して以来、厚高同窓会や厚木連合戸陵会への協力参加を主眼としつつ、地域の会員相互の連絡や親睦を図り、地域社会づくりに協力することを目的としてきた。このような観点からこのたびの龍蔵神社夏祭りの余興にスポットをあてながら紹介しつつ、今後とも地域の戸陵会として地域の芸能文化活動に対して応援していく姿勢をもちたいと考えている。

飯山の里は、かつては鮎が群れた清流小鮎川が流れ、華厳山や霊峰白山、飯盛山や堀切切山の山懐に抱かれた、現在でものどかな集落のたたずまいを残している。そして、飯山観音と金剛寺と龍蔵神社の歴史の遺産と季節感あふれる春の桜まつりと秋

「飯山のような生糸の産地では、蚕の飼育や生糸の生産に使用される屋根裏部屋をしばしば見かける。ピケット・フォースター(イギリスの画家)がジョーと見つけたくなるような緑の小道が見え、簡素な彫りた橋と全体が絵のように美しい風景がある。」

「F・ペイト 幕末日本写真集」(横浜開港資料館刊)より。

明治の始め、横浜に居留していたイギリス人の写真家フェリックス・ペイト氏は、宮ヶ瀬へ向かう途中、飯山の庫裡橋前を通りがかった際、庫裡橋界隈のことを数枚の写真に残して、次のように表現している。

「飯山のような生糸の産地では、蚕の飼育や生糸の生産に使用される屋根裏部屋をしばしば見かける。ピケット・フォースター(イギリスの画家)がジョーと見つけたくなるような緑の小道が見え、簡素な彫りた橋と全体が絵のように美しい風景がある。」



赤い庫裡橋の下、小鮎川に舞った白龍はスポットライトに浮かび上がり、幻想的な雰囲気を表し、神社前の道や庫裡橋上の観客はみな、白龍の勇壮華麗に舞う姿と川面に映る龍鱗の彩りに酔いしれた。余興のフィナーレとして、真夏の宵に小鮎川に舞う白龍は幽玄の世界に人々を誘(いざな)うに相応しい飯山の地域行事の一つとなった。「飯山白龍の舞」は、飯山の郷づくりを目的とする地域の有志が取り組む地域文化の創造活動として、今から7年前に和紙と綿布と紙粘土から創造された手づくり龍である。そもそもの始まりは、飯山の「白龍伝説」にあり、古くから語り継がれてきた「飯山の七不思議」の一つである「白山池の霊水」に由来している。

飯山桜の里と霊峰白山の「白山池」と白山神社雨乞い行事からくる昔話は、ものがたりとして神秘的で想像性あふれるものである。今では、「相模国飯山白龍太鼓」の活動や、「飯山の七不思議小鮎川護岸壁画」と共に、ふるさとを語る話題としてなくてはならないものとなった。これからは、飯山の歴史文化と人々の感性が息づくような、次代を担う子どもたちの夢をふくらませるような「白龍のものがたり」づくりが求められる。以上地域づくりと人々の豊かに生きる郷土愛を高めるような地域文化の創造に向けた活動には、小鮎戸陵会としても惜しみない応援を送りたいところである。



新聞部や文藝部のメンバーたち

第3回 かながわ 校歌祭のお知らせ

日時 平成20年10月11日(土) 正午～5時

会場 横須賀芸術劇場(京急汐入駅前) 急汐入駅前

※厚高の参加について
現役、同窓生合わせて100名を予定。(貸し切りバス利用)

※練習会について
9月14日(日)午後2時から厚高家庭で開催

※懇親会について
バスにて厚木に戻り地元で行う

※参加申し込みについて
厚高志村先生あてにフアクスマまたは電話にて
046-(222)8243
名前、住所、地区名、卒回、電話番号を明記のこと

厚木市優良施工店賞受賞
神奈川県優良水道設備店賞受賞
神奈川県建設業労働災害防止優良企業賞受賞

住まいの快適

リフォーム 増改築

株式会社 小林リビング

代表取締役社長 小林知弥 (高8回)

厚木市山際570(R129山際交差点隣) ☎046-245-3261

造園・設計・施工・全般

庭や樹木に関するご相談

等お気軽にどうぞ。

(株)大木ガーデン

代表取締役 大木幹雄 (高22回)

〒243-0036 厚木市長谷1552
☎046-247-1568 Fax 046247-9580

望みが沸き、趣きに親しむ、 かくれ里の隠れた魅力。

あつぎ飯山温泉

元湯旅館

代表取締役 石川範義 (高10回)

神奈川県厚木市飯山4916
TEL.046-242-0008(代) FAX.046-241-8975
●東京案内TEL.03-3207-0008 ●URL http://www.motoyu.co.jp/



出版の仕事に就いてすでに32年、さまざまな人と接する機会があったが、俳優の中本賢さんには感心させられる。中本賢といっても、誰?と思う人が多くいでしょうが、かつての芸名はアパッチけん。銀座ナウという番組をスタートにハンダースというコメディグループで活動していた、といえは思い出すのは。現在は俳優業やラジオのパイナリテイで活躍中。映画「釣りバカ日誌」でハマちゃんの人・太田丸の船長といったほうがわかりやすいかもしれない。

この賢さんの何に感心しているかという、彼は約20年、家の近くの多摩川を観察し続けているのだ。それもハンパな観察ではない。魚の種類、数、産卵の様子、飼育まで四季を通して

多摩川と小鮎川

平野健一(高25回・睦合)

徹底して記録しているのである。そして近年では流域の小中学生たちに総合学習を通じて多摩川の観察と環境学習を教えている。それもすべてボランティアなのだ。さらに今年になってからは「小学生より先生のほうが川を知らないんだよ」ということで先生たちを対象にした「多摩川塾」なるものを主催している。もちろんこれもボランティアだ。毎月2、3回、土曜か日曜に20、30人の先生を集め、川での実践体験教室を行う。私も賢さんとは10年来のつきあいで同世代、魚釣りが好きなこともあって、お手伝いで参加している。でもこれが実に面白い。子供のころの魚釣り遊びに戻ったようで、参加した先生たちもワーワーと大騒ぎ。とても小学校の先生とは思えないしやぎよう。日頃モンスターペアレンツに悩まされている先生たちにとっては、思わぬ開放感に浸れるのかもしれない。

多摩川といえば、昭和40年代には高度成長の煽りから生活排水が大量に流れ込み、堰堤の下は洗剤の泡であふれかえっていた。鮎はもちろん、魚もほとんど姿を消してしまっていた。ところがその後の環境運動や浄水設備の設置などで、格段にきれいになった。いまでは鮎をは

じめウグイ、オイカワ、モツゴ、ウキゴリなど、びつくりするほどの生き物が戻ってきている。賢さんいわく「実は今でも多摩川の70%は生活排水なんだよ。だから、多摩川の源流はほとんどがトイレってワケ」さらに「多摩川は人が汚して、人が元に戻した唯一の川でもあるんだ」とその面白さを口にする。確かに東京、神奈川という大都會を流れる一級河川でありながら、護岸は少なく、生き物がたくさん生息している。灯台下暗く、意外と身近な自然を実はよく見ていないのが我々なのだ。相模川の支流の中津川、そしてさらにその支流に小鮎川がある。その名の通り、私が小学生のころは小さな鮎がたくさん捕れた。夏休みは小鮎川での魚釣り。夏休みの遊びだった。しかし、多摩川同様その後には不法投棄や生活排水で汚れ、魚も姿を消していった。現在、私は横浜市に住んでいるため、頻繁に小鮎川を訪れることはできな

いが、月に一度程度は小鮎川を観察に出かけている。昨年の夏には発見があった。鮎が戻っていたのだ。釣りをしているおじさんに「何が釣れますか?」と聞いたところ、魚籠の中に30匹くらいの鮎が入っていた。やっとなんか来たな、40年からの年月

「夏の終わりに」
暦の上では「立秋」も過ぎました。上り坂にあつた気温も、立秋の頃最高に達します。しかし、風のそよぎ、雲の色や形に、何とはなしに秋の気配が感じられるようにもなります。そんな8月の下旬。例年のおと、宝泉寺の「早起き会」が開催されるのです。
座禅：法話：お粥の会。早朝の5時30分～7時。今年は29・30・31日の実施です。
みな参加される目的は様々です。でも一様に黙って坐り、静かに時の流れに自分を任せている姿は尊い。3日間野200

「風にゆれる花々を見て、心のやすらぎを少しでも感じてもらいたいね...」
そんな立ち上げ当初の思い。原点を忘れずに、これからも楽しみながら、花活動を続けていきたいと願っています。
花ボランティア代表
小松のぶ子
(南毛利戸陵会・元PTA役員)

「風にゆれる花々を見て、心のやすらぎを少しでも感じてもらいたいね...」
そんな立ち上げ当初の思い。原点を忘れずに、これからも楽しみながら、花活動を続けていきたいと願っています。
花ボランティア代表
小松のぶ子
(南毛利戸陵会・元PTA役員)

このところ、にわかエコや環境問題がクローズアップされているが、なんだか白々しく思っている。それがあたかもファッションのようにエコバッグを持ってみたり、ハイブリッド車に買い替えてエコロジストのよう顔をしたり、にわか知識の二酸化炭素論議をしているのを見聞きすると、うんざりしてくるのだ。暇があったら近く

「早く起き会」で座禅
毎年200人余りが参加
日神山宝仙寺住職 都高真道(高12回・依知)

そのままだと連続公演。八月には市川猿之助の二十一世紀歌舞伎組「新水滸伝」の脚本演出を手がけた。さらに、九月公演の「リバーソング」の制作を引き受けているため、オーディションで選ばれた市民167名の演技指導などを今春から進行中だ。この公演には厚木市出身の榊原郁恵さんと小泉今日子さんもゲスト出演することになっている。公演は九月六日(土)・七日(日)。芸術活動のさらなる飛躍のため、そして核になるひとづくりを目指しているこのプロジェクト、今回の公演の成否が次のステップへの鍵となるだろう。
厚木シアタープロジェクト
古座野隆(高21)



*「花*ボランティア*」*

2003年、保護者有志で立ち上げた「厚高*花ボランティア」(通称花ボラ)が5年目を迎えました。
学校創立百周年に入学した娘が2年の春に、家から、花苗を持ちより小さなプランターに植えたのが最初でした。
今年新たに15名の花ボラ登録メンバーが加わり、現・元保護者が一緒になり月2回の全体活動を軸にした、季節

の花植えや水やり等の日常的な環境美化活動を行っています。
私は、子どもが卒業してからも、こうした活動を通じて身近に厚高を感じられることを、とてうれしく思います。
1月には、県教育委員会からの補助金で、正門脇に新花壇も完成しました。白色アリスサム、ピンクの金魚草、うす紫のイソトマ等がきれいに咲いています。水やりを終えて、ホッとしていると、時々

トンボや蝶もやってきて羽根を休めます。思わず心がなごみます。
「風にゆれる花々を見て、心のやすらぎを少しでも感じてもらいたいね...」
そんな立ち上げ当初の思い。原点を忘れずに、これからも楽しみながら、花活動を続けていきたいと願っています。
花ボランティア代表
小松のぶ子
(南毛利戸陵会・元PTA役員)



横内謙介さん文化会館開館三十周年記念公演をプロデュース

音楽劇「リバーソング/永遠のハックルベリーフィンたちへ」

劇作家、演出家の横内謙介さんは相変わらず多忙だ。今年に入ってから、三月に厚木市文化会館を皮切りに都内で公演、四月は明治座でネオ時代劇「HAKANA」の公演、五月には韓国仁川全国演劇祭、釜山国際演劇祭に正式招聘され「お伽の棺」で初の海外公演を成功させた。帰国して凱旋公演を厚木市文化会館で成功させると、

厚木グリーン リサイクルセンター

※ 樹木粉砕チップ加工・堆肥製造販売

株式会社 ヒロコーポレーション

厚木市三田3082-1 TEL.046-242-5420

(株)内田造園

代表取締役 内田徳孝 (高10回)
厚木市下荻野483 TEL.046-241-1646

エネルギーをより高い付加価値に昇華することが、私たちの使命です。

- 住環境の整備 (コミュニティ開発事業)
- 土地を活かす (不動産活用事業)
- 快適な住まい (住宅事業)
- 都市型空間の提供 (賃貸事業)
- 都市機能の充実 (都市再開発事業)
- 創造のテクノロジー (建設事業)
- 円滑な住みかえ (仲介事業)
- 総合的な安心 (設計・開発・管理・アフターサービス)

代表取締役 杉田泰繁 (高14回)

SUGITA (株)杉田商事

厚木市旭町2-1-17中川ビル1階 TEL.046-228-4581 FAX.046-228-6078

株式会社山善では個人建設から公共事業に至るまで、技術と真心でお客様に喜ばれる実績を残しています。

百世の安堵を因らために、日本には建設業が必要です。

社長ブログ更新中!!

株式会社山善

TEL.046-288-1345 FAX.046-288-1222
〒243-0112 神奈川県愛甲郡清川村煤ヶ谷 3041

<http://www.yamazzen.co.jp/>

活躍する同窓生 著作物と近況

(文化・芸術編)

最新刊は「万葉集の表記・成立・文学」万葉集研究に没頭 四十年、元厚高の国語の先生 中村昭さん渾身の二冊

中村昭(中40)国文学者。昭和4年厚高出身。名城大学大学院博士課程修了。国文学中西進教授に師事。昭和26年、39年まで厚高校に奉職。その後、茅ヶ崎北陵高等学校(定時制)を経て、62年九州東海大学教授となる。平成7年退職。現在、東洋文化研究所評議員。

近作「万葉集の表記・成立・文学」おうふう社刊¥28000+税

「万葉集と私」 中村 昭

万葉集について書いて欲しいというご注文なので、それにお答えしましょう。万葉集20巻、4500余首と言ふ言葉はしばしば聞かれますが、12万6千文字という言葉は聞いたことがありません。実は万葉集は12万6千文字あります。漢字で書かれています。(奈良時代は漢字しかありませんでした。これは私が初めて教えたもので、何の為に教えたか。それは万葉集



「万葉集の表記・成立・文学」

の漢字がどれに属するのか、わかりにくいのもありました。気の遠くなるような作業の連続でした。でも、結局、家持が万葉集全体の最終編纂者だということが明らかになりました。途中、脳梗塞にかかって記憶力を失い、3年ばかり空費して、去年の11月に完全回復したと医師から告げられました。死ななくて幸いでした。平成17年6月に著書出版しましたが、途なばばです。これから書かねばならないことが山ほどあります。どうか神様、それまでは生かして下さいと祈るような気持ちで送っている毎日です。

ウェブ連載漫画「のんのんちゃん」が最新作 さかもと未明さん



さかもと未明(高36回)漫画家。横浜市出身。玉川大学英米文学科卒。八九年、レイズコミック誌「フル」で「セカンドライフ」を発表デビュー。2000年文学界にて「花畑」で作家デビュー。2007年には七年がかりの大型歴史漫画「マンガローム帝国の歴史1-3」を上梓。すでに20数冊の著作を数える。近作「のんのんちゃん」 講談社刊¥6300

勤める。エッセイ、ルポなどにも小気味よい文章を書き続けあの美貌と相まって人気も才能も全開である。

先頃起きた秋葉原無差別殺傷事件に関するサンケイ新聞に寄せた未明さんのコメントなどは、まさに彼女の真骨頂ここにあり、と言えるのだ。抜粋引用させてもらった。

犯人の男を、「救い難く孤独で攻撃的だ、女性に対する飢えがあり信じ難いほど精神が脆い」と断罪する。そして、「女性に比べ男性は実に心が弱く、女性が男性に求めるよりはるかに強く男性は女性を求める、と感じて来た」という。

退職後の豊かな人生を綴った、エッセイ。「海外でのセカンドライフ/オレゴン」 静かな森から リリクター香子さん

リリクター香子(高18回)翻訳家、座間市出身。神奈川大学英語英文学科卒。俳句誌「阿夫利」同人。「抒情文芸」で詩作活動もする。訳書D.P.モイニハン著「政治家は未来を告げることを聞く/病めるアメリカ」と聞かされた。社会思想社刊。近作「海外セカンドライフ/オレゴン」の静かな森から 新風舎刊¥7520+税

本人曰く、「ポオーっ」としている。のである。私からも、そう見えるのである。「流れる雲を見るのが大好きです。」こうも言う。一方で、あの情熱的なアレクサンダーンゴを愛好して、プロはだしの踊りも魅せて。どこかチグハクと出ている。妖艶な雰囲気醸し出している。リリクター香子がエッセイを出したと聞き、早速取り寄せて読んだ。高校の同期で友人だからと身量厚でなく、この本、最近読んだエッセイのベスト本だと自信を持って言いたい。



ある時は、ガレッジセールで我が子が可愛がっていたぬいぐるみを手放す寂しさに心を痛め、ニューヨークの地下鉄では身勝手な男性乗客に敢然と立ち向かい母親の強さを示し、また、家の庭に棲みついた野性の孔雀母子に愛情を注ぎ込み瀕死の雛を救ったりする。活き活きとした話が次々と展開するのだが、彼女の本性を見心させられるのである。

戦後といえども、まだ旧弊が残る地方の旧家に生まれ育ち「日本的観」を受けた彼女が再婚して米国人の伴侶と50歳を過ぎてオレゴンに移住、しかも数ヶ月がかりで家を手作りで建

活躍めざましい、女流俳人。難民の救済、支援にも奔走。山下知津子さん

山下知津子(高20回)俳人。愛川町出身。お茶の水女子大学哲学科卒。俳句同人誌「麟」代表。俳句同人誌「件の会」同人。特定非営利活動法人「北朝鮮難民救済基金」理事。句集に「文七」「髪膚」がある。近作「髪膚」角川書店刊¥2800

「麟」俳句会発行¥500(年間¥3000隔月刊)

俳句とポランテア 山下知津子

30数年前、「死にたれば人きて大根煮きはじむ 下村槐太」を知って俳句の凄さに惚然とした。同じころ野澤節子の第一句集「天明音」に大きな衝撃を受け、野澤節子主宰の「蘭」に入会。以後20数年間指導を受ける。節子先生ご逝去の後、今井聖主宰「街」を経て、2005年1月、仲間数人とともに「ささやかな俳句同人誌「麟」(隔月刊)を創刊。生の刻印としての俳句実作と女性俳句の共同研究を二本の大きな柱としている。

一方で10年ほど前、知人のジャーナリスト、在日コリアンの友人と三人で「北朝鮮難民救済基金」を立ち上げた。厳しい抑圧と飢餓から逃れ、中国やロシアなどに隠れ住んでいる北朝鮮難民、いわゆる脱北者。特に女性と子供たちの悲惨さは言語に絶するものがある。かつて日本は朝鮮半島を植民地

として支配した。今、政治的主張は一切抜きにして、あくまでも人道の立場から、まずは一人を恐怖と飢餓から救い出せたらと、NPO法人・北朝鮮難民救済基金の活動の詳細についてのお問い合わせは左記迄、ご連絡下さい。

連絡先・〒113-0024 東京都文京区西片2/2/8 西片ハイテラ A101 NPO 法人・北朝鮮難民救済基金事務局 TEL&FAX 03-3815-8127 Email: ntkikin@hotmail.com

「道元の心 俳句の心」 倉橋羊村さん

倉橋羊村(中43回)作家。昭和六年横浜市出身。青山学院大学経済学部卒。昭和27年水原秋桜子に師事。俳句の道へ。俳句誌「波」主宰。平成15年日本文芸大賞受賞。現代俳句協会副会長。日本ペンクラブ理事他公職多数

近作「道元の心、俳句の心」朝日新聞社刊¥2667

「紅顔いづくにか去りにし、尋ねんとするに蹤跡なし」などという道元の「正法眼蔵」が基になった「修証義」が幼い頃より耳に馴染んでいたという

倉橋さんは生後数ヶ月で母親を亡くし幼い頃より法事のたびに菩提寺で右のような文言を聞かされておられる物心つく頃には、体に染み込んでいるようだという。後年に道元を正面から研究するに至ったのもこの頃のこと。これまでに、「道元」(平成2年講談社刊)、「道元の遺言」(平成16年北溟社刊)を上梓しており今回が3冊目の道元書となる。しかし、最新作は前作とは少し趣が違ふ。もう



ひとつの専門分野である俳句の世界との独自の考察が加えられていることだ。

道元と芭蕉、芭蕉と禅、連句と時開論、脳内現象、連続非連続とかかわり、月と悟り、などなど。興味深い論考が飽きさせない。同時に道元という存在を身近なものにしてくれる一冊である。

主宰誌「波」に「道元に聞く」の連載を続けつつ、道元教室の講座(読売大森センター)も続行、今年で15年目になるという。道元の研究はまだまだ尽きそうにない倉橋さんである。(大塚記)

「俳諧とその周辺」 自らの古希を祝う記念の一冊。森川昭さん

森川昭(高3回)国文学者。東京大学名誉教授。昭和6年、座間市出身。東京大学大学院卒。昭和61年から平成5年まで東大文学部の教授、退職後、名誉教授。以後、帝京大学教授となる。近作「俳諧とその周辺」翰林書房刊¥25000+税

近世文学研究のかたわら、さまざまな雑誌、新聞、学会誌などに発表してきた膨大な量の論考、エッセイ類などを30数項目のテーマに分け、まとめあげた一冊がこの「俳諧とその周辺」である。

俳諧研究の第一人者が折々につづった江戸の愉悦、と本の帯に書かれているように、「話のネタ」がバラエティに富み、魅力的な文ばかりである。

歌舞伎、浮世絵、茶の湯、端唄と俳諧、江戸文学の女性達、等々題材は見事なほど豊富。珠玉のエッセイ集である。

この本の冒頭の一章は、「相模の大山ノ心敬幽居跡を訪ねて」。室町時代に連歌論「ささめこと」を書き名を遺している心敬が晩年を過ごした伊勢原の探索から始まる。(大塚記)

衝撃のデビューから十三年。最新作は環境問題をテーマにした「ポジティブスパイラル」服部真澄さんを

服部真澄(高32回)小説家。東京都出身。早稲田大学教育学部卒。編集者を経て95年「龍の契り」で文壇デビュー。二年後の「驚の驕り」で第18回吉川英治文学新人賞。他に「ディール・メーカー」「バカラ」「海国記」「最勝王」などがある。

近作「ポジティブスパイラル」光文社刊¥17000+税

処女作「龍の契り」(祥伝社刊)では香港にまつわる中国外交問題をテーマとしたサスペンス大作だった。その後も遺作子組み換作物「GMO」を送り出し、「エクササイズ」(角川書店刊)では十億ギガバイトという天文学的情報量のユニットが開発され、これを人の目の近くに埋め込むと自分が見た映像がすべて記録されるという。近未来の世界が小説の舞台だった。歴史は記憶に寄って創られるのか、記録は記憶を再現できるのか、永遠とは何かを問いつつ人間の根源的欲求をあぶり出す、といった問題作だった。最新作の「ポジティブスパイラル」は日本を環境大国に変える、というテーマに挑戦。緻密な取材でスケールの大きな物語展開がされている。環境問題を正面から扱



「Positive Spiral」

デビュー作からダイナミックなストーリーと鋭い心理描写で、一躍人気漫画家になった未明さん、二年前から日本テレビ「スッキリ」でレギュラーのコメンテーターも

「男性に対しては女性よりはるかに厳しい教育、身体の鍛錬、自利心の獲得、強く成熟した男性とのコミュニケーションが必要と痛感する」とも。その上で、「最近の男女平等教育は、男性を抑制し、伸ばす知恵を持たない。(略)いつまでもジェンダーフリーなどというものに拘泥するのよ。」

かように鋭い舌鋒で社会をクリテックしてみせる。今後の活躍にも多いに期待しよう。(大塚記)

「道元の心 俳句の心」 倉橋羊村さん

「道元と芭蕉、芭蕉と禅、連句と時開論、脳内現象、連続非連続とかかわり、月と悟り、などなど。興味深い論考が飽きさせない。同時に道元という存在を身近なものにしてくれる一冊である。」

主宰誌「波」に「道元に聞く」の連載を続けつつ、道元教室の講座(読売大森センター)も続行、今年で15年目になるという。道元の研究はまだまだ尽きそうにない倉橋さんである。(大塚記)

「俳諧とその周辺」 森川昭さん

近世文学研究のかたわら、さまざまな雑誌、新聞、学会誌などに発表してきた膨大な量の論考、エッセイ類などを30数項目のテーマに分け、まとめあげた一冊がこの「俳諧とその周辺」である。

俳諧研究の第一人者が折々につづった江戸の愉悦、と本の帯に書かれているように、「話のネタ」がバラエティに富み、魅力的な文ばかりである。

歌舞伎、浮世絵、茶の湯、端唄と俳諧、江戸文学の女性達、等々題材は見事なほど豊富。珠玉のエッセイ集である。

この本の冒頭の一章は、「相模の大山ノ心敬幽居跡を訪ねて」。室町時代に連歌論「ささめこと」を書き名を遺している心敬が晩年を過ごした伊勢原の探索から始まる。(大塚記)

「道元の心 俳句の心」 倉橋羊村さん

「道元と芭蕉、芭蕉と禅、連句と時開論、脳内現象、連続非連続とかかわり、月と悟り、などなど。興味深い論考が飽きさせない。同時に道元という存在を身近なものにしてくれる一冊である。」

主宰誌「波」に「道元に聞く」の連載を続けつつ、道元教室の講座(読売大森センター)も続行、今年で15年目になるという。道元の研究はまだまだ尽きそうにない倉橋さんである。(大塚記)

「道元の心 俳句の心」 倉橋羊村さん

「道元と芭蕉、芭蕉と禅、連句と時開論、脳内現象、連続非連続とかかわり、月と悟り、などなど。興味深い論考が飽きさせない。同時に道元という存在を身近なものにしてくれる一冊である。」

主宰誌「波」に「道元に聞く」の連載を続けつつ、道元教室の講座(読売大森センター)も続行、今年で15年目になるという。道元の研究はまだまだ尽きそうにない倉橋さんである。(大塚記)

「道元の心 俳句の心」 倉橋羊村さん

「道元と芭蕉、芭蕉と禅、連句と時開論、脳内現象、連続非連続とかかわり、月と悟り、などなど。興味深い論考が飽きさせない。同時に道元という存在を身近なものにしてくれる一冊である。」

主宰誌「波」に「道元に聞く」の連載を続けつつ、道元教室の講座(読売大森センター)も続行、今年で15年目になるという。道元の研究はまだまだ尽きそうにない倉橋さんである。(大塚記)

「俳諧とその周辺」 森川昭さん

近世文学研究のかたわら、さまざまな雑誌、新聞、学会誌などに発表してきた膨大な量の論考、エッセイ類などを30数項目のテーマに分け、まとめあげた一冊がこの「俳諧とその周辺」である。

俳諧研究の第一人者が折々につづった江戸の愉悦、と本の帯に書かれているように、「話のネタ」がバラエティに富み、魅力的な文ばかりである。

歌舞伎、浮世絵、茶の湯、端唄と俳諧、江戸文学の女性達、等々題材は見事なほど豊富。珠玉のエッセイ集である。

この本の冒頭の一章は、「相模の大山ノ心敬幽居跡を訪ねて」。室町時代に連歌論「ささめこと」を書き名を遺している心敬が晩年を過ごした伊勢原の探索から始まる。(大塚記)

「俳諧とその周辺」